

# 「学びの变革」指導展開例

## ＜基本情報＞

◇教育課程 美術科

◇学年 中学部 第1学年(4名)

◇单元名 「彫刻, 立体① いろいろな素材で作ろう」

- ◇単元の目標
- 経験や想像をもとに、計画を立てて、作品をつくったりそれらを飾ったりすることができる。
  - いろいろな材料や用具などの扱い方を理解して使うことができる。
  - 自然や造形品の美しさに親しみをもつ。

- ◇本時の目標
- ・ 絵の具と混ぜる水の量に留意し、絵の具の濃さを調節することができる。
  - ・ 立体物の側面や底面に注意し、着色することができる。

◇生徒の実態 知的障害の生徒1名と、知的障害と自閉症を併せ有する生徒3名。集中が長く続かないことから、細かい作業や複雑な作業が難しい傾向がある。着色については色などを塗ったあとは、塗り残しがあっても気付くことは少なく、塗り直すという意識もあまりもっていない生徒、塗るという作業自体には関心をもつが、出来栄えまでは意識が向きにくい生徒がいる。

## ＜学習過程(抜粋)＞

学習活動	指導上の留意点 (□課題 ○支援 ☆評価)			
	A	C	D	全体
1 挨拶				○正しい挨拶
4 制作 ・ 絵の具の硬さを調節する。 ・ 野菜の色を塗る。	<p>本時は、身近な野菜をモチーフにした箸置きを粘土で作成したものに、適切な水分量の絵の具を作って着色する学習活動を設定しています。</p> <p>○制作の実演をする際に、ポイントとして伝え、ホワイトボードに視覚的に示しておく。(T1)</p>	<p>作品を手に持ち、側面や底面を確認して、色を塗ることができる。</p> <p>側面や底面を確認して、塗り残しなく色を塗ることができる。</p> <p>○制作の実演をする際に、ポイントとして伝え、ホワイトボードに視覚的に示しておく。(T1)</p>	<p>必要な絵の具を選び、塗ることができる。</p> <p>○着色する野菜のカラー見本をもとに色の確認を一緒にし、絵の具を選ばせる。(T2)</p>	<p>○適切な硬さの絵の具の見本を実演して作って見せる。(T1)</p>

集中が長く続かず、細かい作業や複雑な作業が難しい生徒Aや塗るという作業自体には関心をもつが、出来栄えまでは意識が向きにくい生徒Dが持続して取り組めるよう、短時間で制作工程が終了し塗り残しのチェックがしやすい小物(箸置き)を題材として取り上げており、集中して制作活動に取り組める題材を工夫しています。

色に対する興味・関心をもたせるため、単色を使用するのではなく混ぜ合わせによる色づくりの実演を行っています(青と黄を合わせて野菜色の緑を作りました)。このことで、生徒Aや生徒Cは他の色どうしを合わせた場合の色についても発想が広がり、いろいろな色の作り方を予想した発言がでていました。

着色する題材を箸置き(小物)にしたことで、集中力に課題のある生徒が一連の制作工程を最後まで取り組むことができました。二つ目の制作に入ろうとする生徒もおり積極的な姿が伺えた。また、着色を行う学習活動において、単色を塗らせるのではなく複合色による色づくりを実演して見せ、色の変化の不思議さを生徒に新鮮に感じさせる場面を設定しており、色の作り方、合わせ方について生徒の発想を広げることができた。本時は指導者の実演であったが、生徒の発想をもとに色づくりを表現させるなどに発展できる授業とも言える。